

ジュンク堂新宿店人文書フェア

ラテンアメリカ、 ラテンアメリカ!



ジュンク堂新宿店7F
東エレベーター前
ミニフェアコーナーにて

◆ 現代企画室の本



メキシコ万歳!
未完の映画シンフォニー
セルゲイ・エイゼンシュテイン／著
定価 2400 円＋税

ロシア・ナロードの姿と精神を輝く映像に取ったエイゼンシュテインは、異郷メキシコをいかに捉えたか。スターリン治世下、不幸、未完に終わった作品の命運を開示。



未来の記憶
エレナ・ガーロ／著
定価 3000 円＋税

禁じられた愛に走った罪のゆえに罰として石に姿を変えられた女。その物語の背後に広がる時代と村人の生活を復讐の音が語る、メキシコの豊饒なる神話的世界。



グアタハラを征服した日本人
メルバ・ファルク・レジェス／著
定価 2500 円＋税

時は江戸時代、大阪生まれの 10 歳の男の子が、メキシコへ渡った。男はその後グアタハラで有力な実業家となっていく。異郷に生き、愛し、働き、死んだ男の物語。



サバティスタの夢
たくさんの世界から成る世界を求めて
マルコス＋イボン・ル・ボ／著
定価 3500 円＋税

その活動と言語で従来社会運動のイメージを一新したサバティスタ民族解放軍。ゲリラの根拠地で、フランスの社会学者がマルコス副司令に迫る長時間インタビュー。



マルコス ここは世界の片隅なのか
反グローバリズムを巡る対話
マルコス副司令＋イグナシオ・ラモネ／著
定価 1600 円＋税

時代に先駆けて反グローバリズム運動を切り開いたメキシコ・サバティスタの覆面の副司令マルコスが、めざすべきもうひとつの世界のあり方を語る。



その時は殺され……
ロドリゴ・レイローサ／著
杉山晃／訳
定価 1800 円＋税

グアテマラとヨーロッパを往復する独自の視点で浮かび上がらせる中米の恐怖の現実。ホール・ボウルズを魅惑したグアテマラの新進作家の上質なサスペンス。



ジャガーの微笑
ニカラグアの旅
サルマン・ラシュディ／著
定価 2000 円＋税

1986 年サンディニスタ革命下のニカラグアを訪れた「悪魔の詩」の作家は何を考えたか。革命下での言論の自由、民主主義の問題をめぐる興味深い作家の考察。



アフター・ザ・ダンス
エドウィー・ダンテカ／著
くぼたのぞみ／訳
定価 2200 円＋税

米国で最も注目されるハイチ出身の新進作家が、人を熱狂に誘いこむ祝祭＝カーニバルの魅力を描きつくした、詩情あふれる稲穂ノート。カラー写真 11 枚収録。



崩壊
オラシオ・カステジャーノス・モヤ／著
定価 2000 円＋税

軍事政権、クーデター、サッカー戦争＝中米現代史を背景に、架空の名門一族が繰り広げる愛憎のドラマの行方は？注目のエル・サルバドル人作家の作品を初紹介。



ハバナへの旅
レイナルド・アレナス／著
安藤哲行／訳
定価 2200 円＋税

著者が自由を求めて亡命した国＝米国は、すべてが金次第の、魂のない国だった。忘れがたい故郷への幻想帰還旅行を描いた表題作ほか 2 編を収録。



サヨナラ
自ら娼婦となった少女
ラウラ・レストレーボ／著
定価 3000 円＋税

石油と娼婦の街を彩る美しい愛の神話。「コロンビア社会の悲惨さと暴力を描きながら、作品にあふれる民衆の知恵とユーモアの、抗しがたい魅力を見よ!」(ガルス＝マルクス)



神の下僕 インディオの主人か
アマゾンのかプチン宣教会
ビクトル・ダニエル・ボニーヤ／著
定価 2600 円＋税

20 世紀に入ってなお行なわれたカトリック教会による先住民への抑圧。その驚くべき実態を描いて、征服の意味の再確認から、解放神学誕生の根拠にまで迫る歴史物語。



呪われた愛
ロサリオ・フェレ／著
定価 2500 円＋税

「理想」の封建的な農業社会という公式に立ち向かい、その欺瞞をえぐり出す 3 人の女性たち。プエルトリコを舞台に、パロディーに満ちた精神が描くスリリングな物語。



植民地を誦す
シャンソンが焔った「魔性の楽園」幻想
猪俣 良樹／著
定価 2000 円＋税

フランスはかつて大植民地帝国であった。現地の人びとを侮蔑しながら、男たちはそこに楽園幻想を抱き「女・裸・阿片」を誦す「植民地シャンソン」を生み出した。

書評より | 『崩壊』

あまりの面白さに圧倒される。内線前後のエルサルバドルという、まったく馴染みのない設定でありながら 200 ページが一瞬に感じられるほどだ。しかもマヌエル・プイグよりなお都会的かつ暴力的なモヤの本作は読者の予想を完全に裏切る。(中略)

オラシオ・カステジャーノス・モヤ著

彼のおかげで、中南米文学の今を読むことは、世界文学の最前線を知ることだと気がついた。

——— 都甲幸治 アメリカ文学者
(『崩壊』書評 『読売新聞』より)



インディアスと西洋の狭間で
マリアテギ政治・文化論集
ホセ・カルロス・マリアテギ／著
定価 3800 円＋税

20 世紀ペルーが生んだ独創的なマルクス主義思想家マリアテギの、文化と政治の双方に関わる重要な論文を独自の視点で編集。カーニバル論、チャップリン論なども収録。



アンデスからの暁光
マリアテギ論集
小倉英敬／著
定価 4200 円＋税

ペルーの歴史・現実に関与した土着主義と、マルクス主義が融合した地点に生まれ、困難な時代の今こそ蘇るマリアテギの思想。その異端思想の輝きを復権する。



嘘から出たまこと
マリオ・バルガス・ジョサ／著
定価 2800 円＋税

今と違う自分になりたい—小説の起源はそこにある。嘘をつき、正体を隠し、仮面をかぶる—だからこそ面白い小説の魅力や、名うての小説読みが縦横無尽に論じる。



「ペルー人質事件」解説のための 21 章
太田昌国／著
定価 1500 円＋税

大使邸占拠事件の本質はどこにあるのか。国家テロリズムの発動による人殺しを賛美する言論の頹廃状況に抗して、我々の掲げて立つ地平を探る。



路上の瞳
ブラジルの子どもたちと暮らした四〇〇日
木村ゆり／著
定価 2200 円＋税

栄華をきわめる大都会の中心部で路上をねぐらとして生きる子どもたち。その子らと関わり友情を育んだ現代女性の、しなやかに強靱な、異文化との接し方。



奇跡の犠牲者たち
ブラジルの開発とインディオ
シュルトン・デービス／著
定価 2600 円＋税

70 年代ブラジルの「奇跡の経済成長」の下で行なわれたインディオ虐殺の加担者は誰か。鉱山開発、アグリビジネスの隆盛、森林伐採などに見られる「北」の責任を問う。



チェ・ゲバラ
モーターサイクル南米旅行日記
エルネスト・チェ・ゲバラ／著
定価 2200 円＋税

ゲバラの医学生時代の旅先旅行の様子を綴った日記。無鉄砲で、無計画、他人の善意を当てにする旅行を面白おかしく描写して、瑞々しい青春文学の趣きをもつ。



チェ・ゲバラ ふたたび旅へ
第 2 回 AMERICA 放浪日記
エルネスト・チェ・ゲバラ／著
定価 2200 円＋税

メモ帳とも言うべきゲバラは、若き日の 2 度目の旅においても日記をつけていた。『放浪書簡集』とはまた別の貌つきと心の動きを示す魅力的な日記。未公表写真収録。



エルネスト・チェ・ゲバラとその時代
コルダ写真集
アルベルト・コルダ／作
定価 2800 円＋税

ゲバラやカストロなどの思いがけぬ素顔を明かし、キューバ革命初期の躍動的な鼓動を伝える。写真を「解説」するための註と文章によって多面的に構成。



チェ・ゲバラ プレイバック
『ゲバラを脱神話化する』改題・増補
太田昌国／著
定価 1600 円＋税

キューバ革命から 50 年、世界の何が変わり、何が変わっていないのか。いまゲバラをふり返ることにどのような意味があるのか。ゲバラを通じた現代社会の考察。



ゲバラ コンゴ戦記 1965
パコ・イグナシオ・タイボ II／著
定価 3000 円＋税

65 年、家族ともカストロとも別れキューバから忽然と消えたゲバラ。信念に基づいて赴いたコンゴ・ゲリラ戦の運命は？ 敗北の孤独感を噛みしめる痛切な証言。



ラテンアメリカ美術史
加藤薫／著
定価 3800 円＋税

古代から現代までのラテンアメリカ美術の全貌を、代表的作品 420 枚余の写真を取りてわかりやすく解説したラテンアメリカ美術史の入門書。



記憶と近代
ラテンアメリカの民衆文化
ウィリアム・ロウ／著
定価 3900 円＋税

ラテンアメリカの文化的な豊穡と目を蔽う物質的な貧困の対照性。サンバ、カーニバル、サッカー考などを通して、記憶と近代の狭間でしぶとく生きる民衆文化を分析。



インディアス破壊を弾劾する簡略なる陳述
ラス・カサス／著
定価 2800 円＋税

コロンブス航海から半世紀後、破壊されゆく大地と殺されゆくインディオの現実を報告して、後生に永遠の課題を残した古典。エンツェンスベルガー論文も収録。

書評より | 『嘘から出たまこと』

リョサは、生涯をつうじて選びぬいた 20 世紀の小説 35 編を、見識と情熱を表して説きます。(中略) リョサが文学の重要な役割の第一としたのは、個人の内面への深い探求です。(中略)
リョサは大家者ですが、この本で世界文学の最良の教師であり、小

マリオ・バルガス・ジョサ著

説家をめざす人には誠実なチューターであることも明らかです。折角の出会いを逃さぬように。

——— 大江健三郎 作家
(『嘘から出たまこと』書評『朝日新聞』より)



ピノチェト將軍の信じがたく終わらなき裁判

もうひとつの9・11を凝視する

アリエル・ドルフマン／著

定価 2400 円＋税

1973年9月11日に米国との支援のもとで起きたチリ軍事クーデタから25年後、ロンドンで逮捕されたピノチェトの裁判をめぐるドキュメント。もうひとつの9.11を凝視する。



センチメンタルな殺し屋

ルイス・セプルベダ／著

定価 1800 円＋税

『カモメに飛ぶことを教えた猫』の作家の手になるミステリー2編。テンポが速く、しゃれた会話を通して、中南米の現実が孕む憂いと哀しみがあふれる。



隣りの庭

ホセ・ドノソ／著

定価 3000 円＋税

軍事政権を嫌いスペインに暮らすチリアメリカの作家たち。政治的トラウマもやがて色褪せ、歴史の風化という問題に直面する人間の実在の不安を描く。



人生よありがとう

十行詩による自伝

ビオレッタ・パラ／著

定価 3000 円＋税

世界じゅうの人々の心にしみいる歌声と歌詞を残したフォルクローレの第一人者が、十行詩に託した愛と孤独の人生。著者の手になる刺繍のカラー図版、5曲の楽譜付。



屍集めのフンタ

ファン・カルロス・オネッティ／著

定価 2800 円＋税

南米の某国に設定された架空の小都市、サンタ・マリアに先春宿を持ち込もうと蠢く人物群。特異な幻想空間のなかで繰り広げられる、壮大な人間悲喜劇！



グアヤキ年代記

遊動狩人アチエの世界

ビエール・クラストル／著

定価 4800 円＋税

パラグアイのグアヤキ先住民と1年間生活を共にし、その社会をつぶさに記録した文化人類学の名著。やがて「国家に抗する社会」論へと飛躍するクラストルの第1作。



作家とその亡霊たち

エルネスト・サバト／著

定価 2500 円＋税

作家でありながら書くことを拒否する「バートルビー」の仲間へ——書かないことで名声を確固たるものにしたアルゼンチンの作家の、アクチュアルな文学論。



マラドーナ！

マルセロ・ガントマン／編

定価 1600 円＋税

サッカーの歴史を塗り替えた不世出の天才レフティアーは、「言葉のファンタジスタ」でもあった。プロスポーツ界やラテンアメリカ社会の暗部をも鋭くえぐる奔放な語録。



このページを読む者に永遠の呪いあれ

マサエル・プイグ／著

定価 2800 円＋税

ニューヨークに暮らす老アルゼンチン人と彼に添うアメリカの青年。全編を貫く二人の会話を通して、人間が抱える闇の世界と人の孤独が浮かび上がるプイグ晩年の佳作。



私にも話させて

アンデスの鉱山に生きる人々の物語

ドミティーラ／著

定価 2800 円＋税

75年メキシコ国連女性会議で、火を吹く言葉で官製や先進国の代表団を批判したドミティーラが、アンデスの民の生と戦いを語った、希有の民衆的表現。



『悪なき大地』への途上にて

ベアトリス・パラシオス／著

定価 1200 円＋税

ボリビア映画・ウカマウ集団のプロデューサーを務めた女性を描く、アンデスの民の姿。新自由主義経済に喘ぐ民衆の日常を鋭く描く、小説のような18の掌編。



アンデスで先住民の映画を撮る

ウカマウの実践40年と日本からの協働20年

太田昌国／編

定価 3000 円＋税

ボリビア・ウカマウ映画集団が「映像による帝国主義論」の創造を経て、先住民世界へ越境する果敢な営為と、自主上映・共同制作という形で日本からの協働実践を総括。

書評より | 『グアヤキ年代記』

ビエール・クラストル著

人類学、政治学の研究として、画期的な問題提起をしていると同時に、それはいくつもの次元を錯綜して含む偉大な記録であり、考察であり、物語でもある。生と死の交代、他社との共存、自然との交渉、戦争、暴力、性愛、身体、神話、道徳、歌……。それぞれの場面が私たちの世界観そのものを限界に導き、私たちは何ものなのか、と読む者自身に問いを投げ返すようなのだ。(中略)

この本は繰り返し読むことになるだろう。

———宇野邦一 哲学者
(『グアヤキ年代記』書評『論座』より)

書評より | 『人生よありがとう』

ビオレッタ・パラ著

チリの南部の小さな村に生まれたビオレッタは、15歳でサンチアゴに出て、盛り場の歌手になり、チリの「新しい歌」の運動の導き手ともなったが、1947年、49歳で自殺。この本は、彼女の、全編十行詩で綴られた「歌としての自伝」である。ビオレッタは音楽だけでなく詩集や絵や陶器の作品も残したが、どれも素材で悲しげ悲しげで、自由で美しく、心をうつ。そんな作品もおさめた一冊である。

(『人生よありがとう』書評より 朝日新聞)